

第 17 回定例委員会会議録

教 育 長) 開会宣言

教 育 長) 会議成立の宣言

教 育 長) 会議録署名委員の指名（森川委員）

教 育 長) ここでお諮りいたします。

報告第 15 号「令和 5 年度施政方針案と教育費当初予算案について」は、市議会提出議案のため、非公開で行いたと思いますが、御異議ございませんか。

〈異議なしの声〉

御異議なしと認め、そのように決定いたします。

教 育 長) ただいまから非公開で審議いたします。

〈非公開審議〉

教 育 長) それでは、審議に入ります。日程第 1、報告第 15 号「令和 5 年度施政方針案と教育費当初予算案について」を議題とします。提案説明を求めます。

管 理 課 長) 〈議案資料に基づき概略説明〉

教 育 長) 説明が終わりました。質疑はございませんか。

施政方針は市長が代表して述べるのが市の慣例になっております。市によっては教育分野に関しては教育長が言うところもあります。ここで述べられているのは、主語は教育部分に関しては「教育委員会が」となるのですが、ほかのものは「市長が」となります。

市を挙げて、教育はともにやっていくんだと御理解いただけたらと思います。

これによって今度、総括質問があります。3月何日からですか。

学校教育部長) 総括質問は2月27日からになります。

教 育 長) 2月27日から、各会派が総括質問をします。施政方針に基づいて質問されることが多いです。今までこうだったがこれにこう書いているけどどうするなど、各部長がそれに答えていただくということです。

来年度の新規事業と出ているのですが、これは新たな目玉だということで、教育委員さんに披露するものはありますか。

金額の大きさ、少なさと着目度は違います。令和4年度に、大学の受験料補助制度を制定し、額としては大きな額ではなかったですが、新聞紙上でたくさん取り上げられて、画期的なことだと高い評価を受けています。

最近では精道中学校や山手中学校の建て替えで、たくさんお金を使っていた。それ以前にも岩園幼稚園の建替、岩園小学校の増築、潮見中学校の給食棟を建てたことなど、この10年はたくさんの教育予算を使っていました。

管 理 部 長) 88ページ以降、教育委員会関係が出ていますが、管理部で言うと91ページで、来年度については、山手小学校と朝日ヶ丘小学校の外装改修工事で、両方とも築年数が結構たっておりますので、雨漏り等が発生しておりますので、外壁がはがれたりということも発生していたのですが、このたび、こちらについては改修工事を行うことで、計画的に取り組んでいるところです。

教 育 長) 朝日ヶ丘の窓枠が鉄で重たかったですね。

極楽地委員) 建具の締まりが悪かったりもして、心配だったので安心しました。

教育長) アルミサッシでどこまでできるか、まだ見えないところがあります。

管理部長) これまで危なかったこともありますので、ようやくそこについては、特に窓枠の部分の改修ができるようになりました。

教育長) 建築課がいろいろ頑張ってくれてますね。

建築課長) なかなか予算が通らずに、危険性は認識しつつも実施することができなかったところですが、今、委員おっしゃっていただいたように、実際、子どもたちの力では到底開けられないような建具が存在するのも、私自身も確認をしまして、その辺の危険性を財政当局にしっかりと認識してもらえるようにお伝えして、何とか今回、予算をつけていただけました。

極楽地委員) ありがとうございます。

学校教育部長) 学校教育部でいうと、これまでの教育課題、様々な課題がありますが、それについては引き続き取り組んでいるのですが、近年、ここ10年以内で、外国人児童生徒が増えてきているところがある中で、その人たちへの手だてをどうしていくのかというところでは、

昨年度からは教員がそういう児童生徒にどのようにアプローチしていくのかで、日本語指導者養成研修を2年間のプログラムでやっていっていたのですが、来年度は少しお金をつけて、88ページにあります多言語翻訳アプリ、ポケットクスのアプリ版があるので、コミュニケーションツールとは切り離して、日本語指導という形で、子どもたちが学習理解をど

う深めていくのかを研究していきながら、子どもたちがこれから日本で過ごしていく中で、よりよく過ごせるような手だてを講じていくところです。

今、無料版を借りながら、12月の1か月ほど各学校で、どういうふうにしたらいいのか取り組んでもらいながら、何とか予算化にこぎ着けたということです。

もう1つは、部活動の地域移行がありまして、来年度から学校教育部で予算を取りまして、スポーツ推進課、または生涯学習課とも連携しながら、部活動の休日の地域移行について協議会を持って検討していく。

受け皿をどういうふうにしていくのか。どういう部活動、どういうスポーツ、または文化部まで行けるかどうか分かりませんが、まずはスポーツです。そこを、どういうものを地域に移していきながら、受け皿をどこにしてもらおうかという検討をしていく。そのための予算を取っています。

これは新しい国の動きの中での、芦屋市でも取り組んでいくところが、特に新しく出てきた課題に取り組んでいくところになるかなと思っております。

社会教育部長) 社会教育部は、形になるものとしましては、美術博物館と谷崎潤一郎記念館の改修工事が終わりますので、そのリニューアルオープンのイベントと、美術博物館の歴史資料展示の充実や、展示会をするなり、谷崎のほうは作品の中で「陰翳礼讃」という書籍があるのですが、それをイメージした改修などしていますので、またリニューアルオープンの際に見ていただければと思います。

あと、放課後児童クラブに、医療的ケアが必要な子どもが小学校1年生に上がってきますので、初めて放課後児童クラブで医療的ケア児を預かります。放課後児童クラブで医療的ケア児を預かっている市はなかなかありませんで、非常に早い段階で預かって、保護者の離職を防ぐ目的に沿ってやっていきたいと思っています。

あと、経過的なところでは、図書館がDXに進んでいて、ICタグをつける作業を来年1年間かけてやりますので、それが終わりましたら、令和6年度に自動貸出機など、いろいろなことができるようになります。その準備期間と、先ほど市民会館のZEB化も、令和6年度に工事をしますので、来年度はそれに向けての準備期間で、いろいろなことをやっていこうと思っています。

教 育 長) ICタグ化は、打出分室の本だけではないのですね。

社会教育部長) 本館も含めすべてです。全部の図書にICタグをつけて、本館でも、いつでも全部自動貸出機で貸出しができるようになります。蔵書点検をざっとやれば、それで早くできるので、今、蔵書点検、何日間も閉めていますが、それが短くなったりしますので、かなり進むと思います。

教 育 長) 私が思っているイメージは、ユニクロに買い物に行くと、かごに入れて、置くと自動的に計算して、クレジットカードを入れると、それで終わりです。それと同じようなイメージを持っていていいのでしょうか。

社会教育部長) 置いたら、ぱっと出ます。

教 育 長) ICタグをつけるのは、委託業者にお願いして、全部やっ

てもらおうのですか。

社会教育部長) はい。来年度、半年ほどかけて、まずは、打出分室の工事期間中に元新浜保育所に行って、そこで作業を打出分室の図書から貼り付けをしてもらいます。

教 育 長) 学校図書館がバーコードを導入するのに、保護者に助けていただいて、総出で作業をしました。それがうまくいくなら、学校図書館も次のステップとして期待したいと思います。

社会教育部長) その委託料が8,000万円となります。

教 育 長) 上月先生が校長のときではなかったですか。

上 月 委 員) そうです。保護者の方、地域の方、皆さん、とてもよく手伝ってくださいました。

教 育 長) 今度はそういうことがあったらいいですね。

上 月 委 員) 市立図書館の図書館だよりを読んでいたら、年間で349冊が行方不明になっていると聞いています。そういうことが、今回ICタグが入ることによって解消されていくのでしょうか。

図 書 館 長) セキュリティーゲートを出入り口に設置いたしますので、貸出し手続きを終えずに、そこを通ると音が鳴りますので、そういうことも抑止力になると考えております。

社会教育部長) 予算概要の92ページを見ていただくとイメージ図がありますが、処理をせずに出ると音が鳴ります。

上 月 委 員) 現時点で349冊返ってきていないのは、誰が借りたのかも分からないですか。いつの間にか持ち出されているのが、それだけあるのですか。

図 書 館 長) そのとおりです。

極楽地委員) 学校の図書館について予定は全く未定ですか。

教育長) ありません。

極楽地委員) 以前、お伝えしていたように、特に中学校において、子どもが借りに行く時間に関いてないということで、借りたいけど借りられないところもクリアできると思います。ぜひ、学校もICタグ化していただけたら、子どもたちがもっと本に触れるようになるかと思います。よろしくお願いします。

教育長) この様子を見て、次、また検討していくことになるかと思っています。

極楽地委員) はい。

上月委員) 図書館が本を貸す、借りる場であるだけではなく、人と人がつながっていくような、そういう意味合いが学校図書館にはあります。質問したり、話したりしながら、本を借りたり、返したりしていく。市立図書館でもそういうことがあるかもしれません。司書の方たちと話しながら、こんな本を探していると言いながら借りていく、そのようなことがあるので。一方で、そういうことも大事にしていかないといけないのではないかと思います。学校でもそうです。

図書館長) これまで1冊ずつバーコードをなぞって貸出しをしていたので貸出しのときに時間がかかっていましたが、その分、省力化できると思いますので、職員はそういう本の案内ですとか、レファレンスに注力していきたいと考えております。

上月委員) 分かりました。

河盛委員) 今の話で、この頃、図書館ミステリーがありまして、要するに本の題名も分からないし、作者も分からないですが、こう

という感じの本を探しているんですと図書館司書に言って、図書館司書がその本をぱっと差し出す、そういうものがあるのです。そういうものも司書の方には期待したいと。

あと、施政方針を聞いたときに、例えば質問をするとすると、岩園幼稚園で3歳児保育をやっていますが、ほかの幼稚園ではどうするのですかとか、中学校の部活動の検討委員会を設置されるのですが、実際に民間に移行するのは大体いつ頃を想定しているのですかという質問が出そうな感じですが、その辺は書いておいたほうが親切なような気もするのですが、どうでしょうか。

教 育 長) 2つ質問があって、1つ目は3歳児保育について、多分質問は出る可能性はあります。しかし、そこは今後の様子で、まず就学前施設全体の量の問題もあり、今、答えられない状況があるので、それは一般質問や総括質問で出たときは、そういうお答えになろうかと思います。

2つ目は部活動について、スポーツ庁や文科省は、すぐするようなことを言っていたのですが。7市1町の教育長会議でも、これが議論になりました。西宮市では、モデル校でやっていますが、その様子を見ながら、芦屋もできる部活動からとは思っています。

河 盛 委 員) 特に、期限などは言われていないですか。

教 育 長) 令和8年と言われていましたか。

学校教育課長) 当初は令和5年、6年、7年の3年間を集中期間とされていたのですが、それは少し今、緩和するような通知が年末にありました。

教 育 長) 中体連は、今まで大会に出るのが中学校単位でなければ駄目だと言っていたのが、地域の団体でも出られると言っています。外堀がだんだん埋まってきていて、それを受けてスポーツ庁も最初は3年間と言っていたものが、少し緩和されてきています。

できるところからしていかなければいけない。市としても避けて通れないものだと思います。ファーストランナーではないですがセカンドランナー、前を見ながら行っているのが現状です。

極 楽 地 委 員) 今の部活動移行のお話に関して、施政方針の18ページで「吹奏楽連盟の代表者など」も「協議体を設置」と書いてあるのですが、吹奏楽についても移行という流れになっていくのでしょうか。

学 校 教 育 課 長) 子どもたちの活動、大きく分けますと運動部と文化部ですので、運動系と文化系、両方の整理が必要と考えているのが1つです。

文化部の中でも、実態として土日・休日に活動しているのは特に吹奏楽部ですので、1つ学校の看板と言うとあれですが、文化的なところでは支えている部活動ですので、子どものニーズもありますので、そういう意味で「吹奏楽連盟の代表者など」としてはいますが、吹奏楽連盟に関わっている方に持っていたらとを考えています。

河 盛 委 員) 地域に移行するということですが、今現在ある中学校区で考えられているのか、市域全体で考えられるのか、その辺はどうでしょうか。

学校教育課長) その辺りも部活の種類によって、各学校できちっと人数がそろったりする分に関しては、今後を見据えながらですが、各学校で活動していけるとは考えていますが、今後、人数が減りそのような部活動ですとか、ただ市内で見ますと人数が集まるのではないかというところは合同でするようなこともあります。これも、また協議体の中で協議されていくことですが、できるだけニーズがある以上は、何とか合体してでもということは今、考えている段階でそういうこともあります、それも協議の中で、移動手段もありますので、協議体の中でしっかりと議論していきたいと思います。

上月委員) 打出教育文化センターの改修工事ですが、大分予算が割かれているようです。地域に開かれていくのはすばらしいことだと思いますが、教員の研修センターとしての機能拡充の部分が見えにくい。90ページの小道プロジェクトと研修センターとの兼ね合いは、どうなのでしょう。

打出教育文化センター所長) 改修工事によって教員の研修機能の充実として、現在、LANの配線が複雑になっておりますので、各部屋で使えるように整備をしていく形で進めていきたいと考えているところです。

ただ部屋の数は、今の大会議室、小会議室と部屋の形は変わりませんが、1つは書庫を整備しているところです。そこに自由に教職員が入ることによって、打出教育文化センターにある財産を広く教職員に広めていく。そこで本を閲覧できるスペースを設けようと思っておりますので、そういうところで、拡充で考えております。

上月委員) 部屋数は変わらない。小会議室が1つ、大会議室が1つ。

打出教育文化センター所長) はい、そうです。

上月委員) 分かりました。

学校教育部長) 先ほどあったように書庫の中を整理して、書棚の数を減らすことによって、スペースは生まれています。上月委員が言われたように、そこに本を置いて、自由に入って研修できるとか、パソコンについても、今、真ん中に、ちょうど書庫と事務室の間にありますが、あそこもただ単にだだっ広くなっているので、きちっとパーテーションを組めば、先生たちが来て使えるのではないかというところで、いわゆる内部の中でどういうふうに仕切りを入れていくのかという形で、先生たちが研修できるスペースをつくっていかうと今、話し合いをしています。

上月委員) 学校園の情報の整備を打文が引き受けたと聞くので、情報事業を進めていくに当たって今の部屋は非常に手狭になっています。研修室とは別に、情報関係の部屋は部屋として1室別に設定はできますか。

学校教育部長) 分けようと思っています。今、先生たちが研修できるスペースと、情報の部分と分けようという形で検討しています。

上月委員) 学校支援相談員の先生たちの部屋も必要ですね。

学校教育部長) それは、部屋というよりもパーテーションで区切らないとしようがないかと思っています。

上月委員) そうですか。

学校教育部長) この間も実際に行って、こうしようか、ああしようかという話をしていたのですが。

上月委員) 物がすごく増えているのですね。

学校教育部長) その整理を今行っている。

打出教育文化センター所長) 今、部長がパーテーション等と言っていました、今の事務室と教育工学室の間の壁を取り払って、少し広くし、そういう仕切りでいこうかということで建築課とは相談しています。

教 育 長) 支援の先生がいらっしゃいます。コンピューターの部屋でなく職員の部屋にいてほしい。あそこはコンピューターのいろいろな物があるので、きちんと機能させてほしいと思います。コンピューター部分はここでいろいろ聞いて、アドバイスを得てほしい。

先生たちが来やすい、相談しやすい、研修しやすい空間を確保してもらいたいということが上月委員の思いだと思います。

和室はどうなるのですか。

打出教育文化センター所長) 残します。

学校教育部長) 最初はなくすと言っていたのですが、庭園をせっかくきれいにするのに、あそこの和室は庭園に合うから、それは絶対に残そうと言って、最終、残る形となりました。

教 育 長) それはよかったです。施設のほうで、何かつけ加えることはありますか。

建 築 課 長) 今、設計業務を我々でさせていただいているところです。改修の内容は、打出教育文化センターといろいろお話しさせていただきながら決めているところですが、我々レベルで言いますと、一番大きなポイントとしては、今までエレベーターがなく、2階に行くのに階段しかなかったということで、バリアフリーという点で課題がありましたので、今回、エレベーターを増築して、バリアフリー対応の施設にもなることが一番のポイントかなとは思っております。

森川委員) 先ほど、井岡部長が言われた日本語指導支援事業ですが、施政方針の中に書かれていないのかなと思ったのですが、その予算の中に主な事業として、大きな枠で入っているのに施政方針には出てこないようにも思ったのですが、それはなぜですか。

12ページの下辺りに、国際理解教育などがありますが、外国籍の子どもさんに対する支援とはちょっと違うように思ったのですが。

学校教育部長) 外国にルーツがある子どもたちへの支援では書いていないのですが、いわゆる多文化共生や国際理解という辺りで、一緒に学んでいくためには、その子どもたちの文化も大事にしながら、その子たちの日本語の言語を、しっかりとこちらも考えていかなければいけないかなと。それをしないと、いわゆる外国にルーツのある児童生徒と、他の児童生徒がお互いに異文化を学び合う、共有することもなかなか難しいので、そこをしていくために、いわゆる外国にルーツのある子どもたちの日本語教育、そういうところを大切にしていこうと考えているので。

そういう細かいところまで書けていないところもあるのですが、手だてをどういうふうにするか、コミュニケーションを取るためにどういうふうにするのかと、そういうところで、先ほど言ったアプリを使いながら、活用しながら日本語支援をしていくところになってくるかなと考えています。

森川委員) あと、令和5年度、芦屋の教育指針にも関わってくるのですが、教職員の方が子どもと向き合う時間の確保の中に、教職員の方の勤務時間の適正化が重点目標として書かれてあったり

するのですが、その辺は、この施政方針の中ではあまり触れられていないように思ったのですが、その辺はどういう感じでしょうか。結構、働き方改革などに関わってくる重要な問題かなと思ったので、入ってないように思います。

教 育 長) 16 ページの下から 2 段目の段落で。

教職員人事担当課長) 16 ページの下から 2 つ目で、「教職員の業務改善により子どもと関わる時間を増やし」は、「グループウェア機能を追加した「統合型校務支援システム」と連携して、その辺で時間を生み出すという形で、今やろうとしているところです。

打出教育文化センター所長) 現在も校務支援システムが入っておりまして、それは児童生徒の成績の管理であったり、保健の記録だったりを保存するシステムですが、サポートが切れるタイミングで、文部科学省で言われている統合型と呼ばれる校務支援システムの導入を目指すものです。

「統合型」が、プラスグループウェア機能を追加するものです。予算概要 89 ページの下段にあります。グループウェア機能が教職員のいろいろな情報を管理するシステムであるところで、教職員の業務改善につながっていくところで。

細かい数字ですが、例えばメール機能でいきますと、今は講師が 1 人追加されるたびにメールのアドレスを更新しなければなりません。それを 450 人の教職員がいたら、全員がその作業をしなければならないということがありますが、このグループウェア機能を入れることによって、ヘルプデスク 1 人が作業することによって更新されることがあります。実は年間を通して 40 回ほどそういう作業があるのですが、それが教職員に

としては1つ減ります。そういうものが、いろいろ解消されていく機能であるところです。

極楽地委員) 今のお話で、グループウェアが導入されて、先生の時間ができることがうれしく思います。

欠席遅刻連絡や、保護者からの連絡も投稿できるような内容になるのでしょうか。

打出教育文化センター所長) こちらは、あくまでも今のネットワークシステムの中の校務系というところで、完全に閉じられた中でのシステムになりますので、外部との情報のやり取りはできないような状態になります。

予算概要の下に書いております、芦屋市学校DXアドバイザー業務は、令和8年度のネットワーク更新に向けてのアドバイスを頂ける業務になっております。

今は、ネットワークが三層分離で、完全にネットワークが分離しているのですが、今、文部科学省はクラウド型で、またアクセス制御という考え方でネットワークシステムを構築しなければならない。実は、指導主事の知識では到底ついていけないところですので、このアドバイザー業務委託になっております。

令和8年度のネットワーク更新に向けて、いろいろなシステムが連携できるのかもアドバイス頂きますので、今後、そういうことも含めて、検討はしていかなければならないと思っております。

極楽地委員) 新しいDXアドバイザーの導入も、朝は先生方が一番忙しい時間帯だと現場でも聞いていますので、家庭と学校とのやり

取りなども、軽減できるのであればなおさらいいなと思います。

全体の感想として昨年も概要を、こういうふうに図示されたものを頂きましたが、すごく見やすいなと思ひまして。一覧の表だけではなくて、個別に具体内容を説明頂いているところが分かりやすく、すごくありがたいなと思います。

I C T化など、きめ細やかなニーズをくみ取り、ご検討いただいているので、その辺りもありがたいなと感じました。引き続き、将来を見越して、よろしく願ひいたします。

教 育 長) 他に質疑はございませんか。

これだけ大きなお金を扱う以上、私達も心して執行に当たっていかねばならないと思ひております。

無いようですので、これをもって質疑を打ち切ります。

それでは、報告第15号「令和5年度施政方針案と教育費当初予算案について」の報告を受けたものいたします。

教 育 長) 非公開での審議は終了いたしましたので、これより公開いたします。

<非公開審議 終了>

教 育 長) 閉会宣言